



若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

邑楽町の地名あれこれ⑥



坪谷信号の北にあるこの石柱が孫兵衛川開始地点の目印です。この場所を起点に田んぼなどから水が流れ込み、邑楽町を流れています。

孫兵衛川（まごべえがわ）

孫兵衛川の名がはつきり書物に残されたのは古い話ですが、篠塚村の細谷名主が明和5年（1768）2月に役所に書き出した帳面にあると聞いています。その頃は孫兵衛堀でした。昔は人工を加えた水路を堀と呼びました。篠塚上坪谷の裏の水田辺りから始まって光善寺を過ぎて中野沼に落ちた人工の排水でした。長さ約3、600間（約6、480m）で、もともとは上休泊堀系用水の宮前やその下の水田の行き場のない悪水だったそうです。何でも光善寺の松崎孫兵衛さんという人が掘った堀なので孫兵衛堀と呼んだと言われています。

もともとは堀幅3mくらいの堀で、その原形としての面影を偲ぶところは少なくなりましたが、陣谷地区松林（国道354号邑楽中学校南の信号の南側）と水田の境を北に流れる堀とされています。新中野ができる前、まだ土地改良がされていなかった昭和の初期には本中野駅前の小谷堀流域や現中野東小学校周辺の曼陀羅辺りの水田は湿地帯で、稲田はぬかっで腰まで浸り田舟を曳いて刈り取りをしたほどでしたが、一応、孫兵衛堀は灌概用水でした。当時、子どもたちはよ

簀の子橋（すのこばし）

く孫兵衛堀で魚釣りを楽しんでいました。現在は一級河川孫兵衛川と名も改められ、立派な灌概排水河川として改修利用され、住宅密集地の新中野地区を貫流して、多々良沼に注いでいます。

国道122号石打交差点を大泉町方向に進むと間もなく左手に、こぶ観音入口という標識が見えます。そのすぐ手前にある橋を簀の子橋といいます。

昔はこの辺りには人家もなく道も開けていなかったそうです。ほとんど人通りもなく、まれに近くの人が通るくらいでした。それでも小さい流れがありましたから、橋を架けなければならなかったのです。と、いつて大きな材木で作るほどでもありません。村人は辺りの藪から竹を切ってきて、並べて編んだ橋を架けたのです。

一説には昔、それもいつ頃のことかも分かりませんが、どこかの偉い殿様がどこからかこまで来ましたが、川があつて困っていました。すると、土地の人が簀の子の橋を作つてやりました。お陰で殿様は川を渡ることができました。それから、その小さい橋を簀の子橋と呼ぶようになったそうです。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集) あすへひとこと」より



雨にぬれる
あじさい
(おうら中央公園)



Photo 広報担当者

ひとりごと From editors

▶田んぼに水が入り、カエルたちが大合唱する季節となりました。天気の良い日の夕方は、水面に空が映りこんでとてもきれいです。▶この時期、車を外に置いておくと雨で洗われることもあれば、ほこりと水跡がついてしまうこともあります。私はどうせ降るならきれいになるように降ってほしいと思っている無精者です。▶最近、私の車はなぜか猫の通り道になっているらしく、いつの間にかボンネットに肉球の跡が付いています。時にはフロントガラスを滑り降りた痕跡なども。その跡は雨にも負けません。洗い流してもいつの間にか付いているので、最近はどうも模様だと思ひ込むことにしました。そんな今日この頃です。(栗原)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。



この広報誌は、東日本大震災で被災した三菱
製紙のニューVマット紙を使用しています。